



ここ数年、金価格は上昇傾向にありましたが、2025年に入って金投資への注目が一段と高まり、価格の上昇はさらに加速しました。10月には史上最高値を更新したものの、その後一時下落し、足元ではもみ合う展開が続いています。

コールセンターへも「高値掴みの心配はないか」、「今後も金に投資して大丈夫か」などの問い合わせが増加しており、関心の高さがうかがえます。そこで今回は、

金投資について改めて考えてみたい
と思います。

注目が集まる金投資について、改めて考えてみましょう。



金価格の史上最高値更新とその後の下落

金価格は、米国の利下げ観測や地政学リスクの高まりなどを背景に「安全資産」としての特性が意識され、堅調に推移し、10月には史上最高値を更新しました。しかしその後は、急ピッチの上昇を受けた利益確定売りに押され、一時は高値から約9.1%の下落となりました。足元では若干反発し、もみ合う展開が続いていますが、今後の動向に不安を感じている方もいらっしゃると思います。

とはいえ過去を振り返ると、急ピッチの上昇の後には必ず一時的な調整局面がみられており、今回も自然な流れとも考えられます。このような局面でこそ、金の投資資産としての魅力や役割をしっかりと捉えることが重要です。

金価格(米ドルベース)の推移



金価格:金スポット価格。信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。
上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

金の投資資産としての魅力や役割をしっかりと捉える

金価格は何度も上昇と下落を繰り返してきましたが、長期的なトレンドは堅調です。価格が下落するとどうしても不安が先行してしまいがちですが、重要なのは金の本質的な価値を見失わないことです。

金は一般的な通貨や金融資産とは異なる魅力や役割を有しています。今回は3つのポイントに絞ってご紹介いたします。

①実物資産

金はそのもの自体に価値を有する実物資産であり、無価値になることはありません。株式、債券などと異なり、発行体の信用リスクがない点が大きな魅力です。



株式



債券

リスクの多くを発行元(国や企業など)に依存し、発行元の状況により価値が変動する



金

実物資産なので国や企業が破綻しても価値が揺るがない

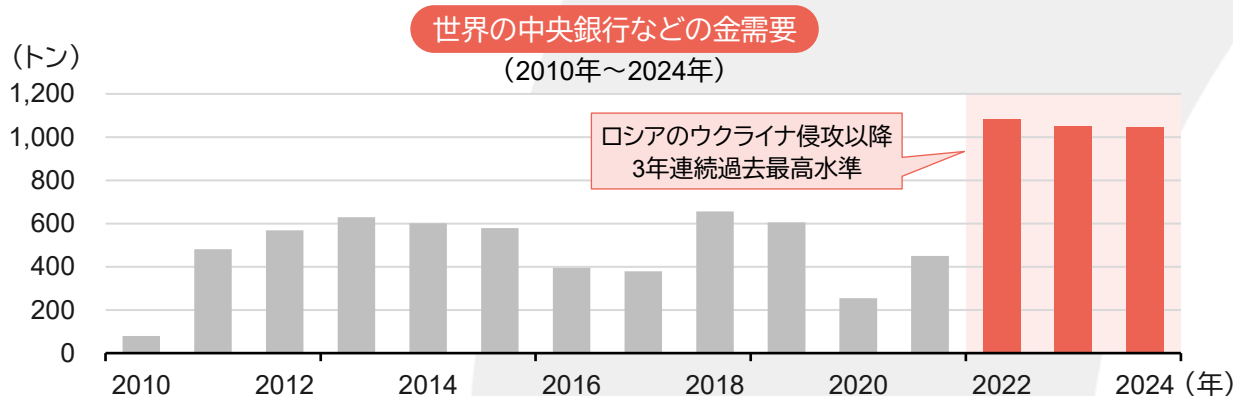
金は国や企業が破綻しても本質的な価値に影響はありません。実物資産としての裏付けが、金の価値を支えるんですね。



②高い希少価値と需要

金の生産量には限りがあり、足元のペースで生産し続けると、約15年で掘りつくしてしまいます*。一方、需要面では宝飾品としてだけでなく、工業品や中央銀行の保有目的といった安定的な需要があります。足元では特定の国や通貨に依存するリスクが意識されており、中央銀行の保有目的での金需要が大きく増加しています。この良好な需給環境は金の魅力の1つです。

*2024年の金の年間生産量と推定埋蔵量から計算

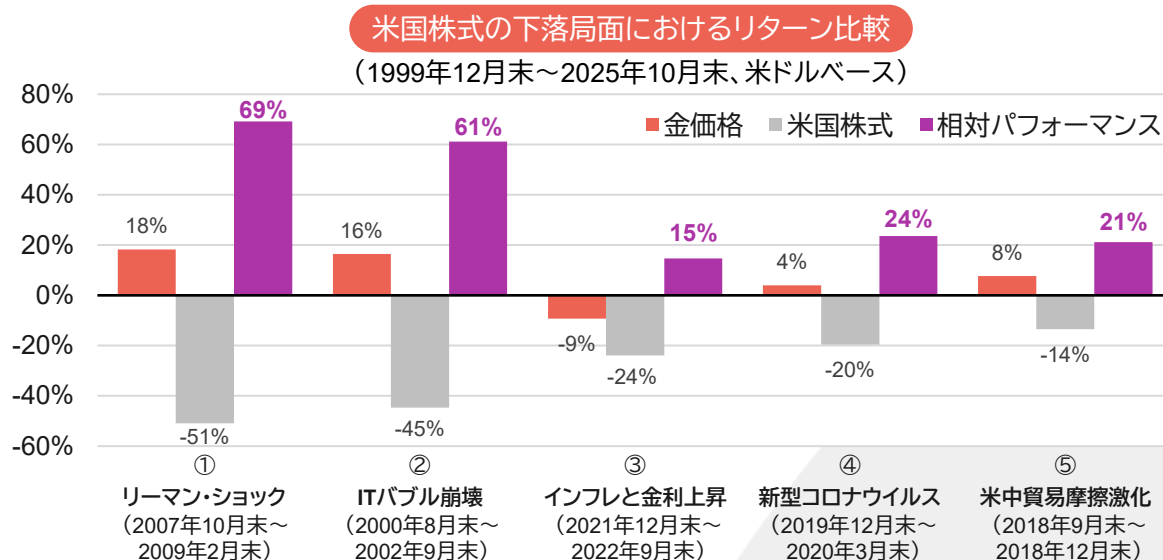


World Gold Councilのデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。
上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

③危機時に力を発揮する金

金は「有事の金」とも呼ばれ、市場が不安定になる局面では、資金の逃避先として選好される傾向があります。たとえば、景気後退が懸念されるような場面では、株式は価格が下落しやすくなる一方、金は実物資産であるため、価値が比較的安定しています。

下記では、2000年以降で米国株式が高値から10%以上下落した全5局面の騰落率をまとめています。金は多くの場合プラスのリターンとなっており、米国株式に比べて下値抵抗力を発揮していたことが確認できます。金は、米国株式の下落局面における緩衝材としての役割を果たす可能性が考えられます。



金価格：金スポット価格、米国株式：S&P500指数(配当込み)。

下落局面は月次データをもとに米国株式が高値から10%以上下落した局面と定義しており、米国株式の下落率が大きい順に表示。相対パフォーマンスは金価格のパフォーマンスから米国株式のパフォーマンスを減算したものです。表示桁数未満は四捨五入しています。信頼できると判断したデータをもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成。上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

重要なのは短期の波に惑わされない投資姿勢

暦が冬に向かうように、市場も季節を刻みます。寒さの中で備えを整えることが、次の春を迎えるための賢明な選択の1つかもしれません。価格が下落するとどうしても不安を感じてしまうと思いますが、金の投資資産としての魅力や役割が変わってしまったわけではありません。

金への投資においては、現物に投資することも選択肢の1つですが、投資信託を活用すると①様々な金融機関で購入可能、②保管・管理が容易、③選ぶ投資信託によってはNISA(少額投資非課税制度)を活用できる、といったようなメリットがあります。

金への投資を検討される際のご参考となれば幸いです。



コールセンター
0120-25-1404
営業時間 平日 9:00-17:00



アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。